



校長室だより

自立に向かって「自分から」

学校と家庭・地域を結ぶ架け橋通信

第9号 令和4年9月1日

小美玉市立美野里中学校

「モデル」が成長に結び付く

長い夏休みも終わり、今日から学校が再開します。まずは、大きな事故・けがもなく過ごせたのが何よりです。子供たちを見守ってくださった全ての方々に感謝申し上げます。

9月8日に予定している本校体育祭〈美中祭〉は、生徒のみで開催する決断をさせていただきました。昨年度、学年ごとの開催になってしまった現状を鑑み、まずは全学年の生徒が一丸となって行う伝統を復活させることが最優先であると考えたからです。上級生がリーダーシップを発揮する姿を下級生が見ることで、美野里中学校のよき伝統が保たれていくのです。子供たちが活躍する姿を見ることを楽しみになさっていた保護者の方々には大変申し訳ありません。職員間・PTA実行委員の方々とも話し合いをしまいましたが、保護者の方々をお招きした場合、大規模校である本校においては、コロナウィルス感染防止のためのソーシャルディスタンスを十分にとることができません。

11月1日開催予定の文化祭／合唱コンクール〈美風祭〉も同様のコンセプトです。上級生の重厚なハーモニーを下級生が聴いて、あこがれをもって、よき伝統を引き継いでもらいたいと考えています。本校の体育館の面積を考えたとき、こちら保護者の皆様方にご理解をいただかなければなりません。

ところで、今回考えてみたいのは、上記のことに絡めて「モデルの大切さ」ということです。

子供たちは、「あんな人になりたい」「あんなことができるようになってみたい」といった「あこがれ」をもって将来を考えると、希望に満ちたとても幸せな気持ちになるのではないのでしょうか。



カナダの心理学者バンデュラは、「モデリングによる学習」を提唱しました。この学習は、「観察学習」とも呼ばれています。

人は自らを成長させるために学習するとき、他者の行動や体験から学習するというものです。この「観察学習」には3つの効果があります。

1つ目は、まさに「まねをして」成長するということです。モデルの行動を見て、自分も同じようにできるようにしようとすることです。

2つ目は、逆に、望ましくない行動をとらなくなることです。厳粛な会場でコンサートを聴くとき、誰もが音をたてたり、ものを食べたりしていない様子を見て、自分も物音を立てないようにきちんと音楽を聴こうとするようなことです。

3つ目は、すでにできている行動をより頻繁に行うようにすることです。サッカーのドリブルが巧みな選手を見て、今まで以上に練習の回数を増やすようなことです。

その結果、できることが増えてくると、自己有用感や自信をもつことができます。

子供たちの「モデル」になるのは、偉人や有名な人とは限りません。我々大人は誰も子供たちの「モデル」になる可能性があるのです。でも、欠点もある生身の人間である我々大人は、そう構える必要はないと思います。身近な大人たちが自分を支えてくれるために、毎朝・毎晩の食事を作ってくれることや、楽しいばかりではなくても、日々の仕事をやり遂げて家に帰ってくることで、そういった日常の営みこそが、子供たちの「モデル」になっていることがあるかもしれません。

いずれにしても「モデル」を選択するのは子供自身です。高い感受性をもつ子供たちには、よき「モデル」を探し続け、自分自身をステップアップしてほしいと思います。